

## ◆ カルナック神殿とルクソール神殿

ルクソール地域は昔テーベと言いナイル川に臨んだ大都市でした。エジプトの歴代の王がこぞって神殿を増築した結果、巨大な神殿となりました。エジプトでは、最も大きな規模を誇るカルナック神殿の中庭にある聖なる池からは立派な水路と参道が伸びていて、水路



はナイル川へ、参道はルクソール神殿に続いていました。ルクソール神殿は、カルナック神殿とセットの神殿のようであり、年中行事としてカルナック神殿から船に御霊を乗せてナイル川経由でルクソール神殿に運んで祀り、終わると参道から船を担いでカルナック神殿に戻すというお祭りを毎年行っていました。現在は小さな船を造って、地元の子供達を乗せて運ぶお祭りがあり、「エジプトはナイルの賜物」のとおり、神とナイル川と船が一体で崇められています。

カルナック神殿には、広大な敷地に歴代王が増築した神殿群が並び、エジプトで最大規模のオベリスクが天まで届けとばかりそびえ、歴代王が競い合い増築したことが分かります。全てのスケールが大きく、今でも修復のため工事が続いており、巨大な塔門修復の巨大なクレーンが活躍しています。



ルクソール神殿は、規模こそカルナック神殿にかないませんが、歴代王達がやはり増築を重ね保存状態の良い遺跡となっています。ルクソール繁華街に近く、すぐ前をナイル川がゆったりと流れ、ホテルも周辺に多くありとても便利です。また敷地内にモスクがあり、共存していてとても興味が湧きます。



一番奥は今でも修復工事が続いています。

正面入口に向かう参道左右にはスフィンクス像が何体も並んで、スフィンクス参道と言われています。とても端整な顔の像も鎮座しています。

(カルナック神殿には、羊の頭をした羊頭スフィンクス参道があります。)